

活動報告

東北師範大学との交流

今年度から、東北師範大学と共同で実施する教育プログラムとしてのダブルディグリープログラムが本格的に始動した。このプログラムは、「教育の本質論を核として展開した教育学を体系的に理解し、人文科学あるいは社会科学の基礎的能力を習得した上で教育の現実的課題を探究する方法論を修得することにより、幅広い国際的な視野と総合的な知識・技能を養うとともに、自立的・創造的な高度の研究能力を有する研究者の基盤および高度な実践能力を有する高度専門職業人の養成を目指す」ものである。具体的には、本学の博士課程前期課程教育学専攻の院生は、1年間の中国留学を含め、3年間で本学の修士（教育学）と、東北師範大学の「修士（法学）」「修士（文学）」「修士（教育学）」のいずれかの学位を授与される。初年度は、本学からは2年次の院生（宮本慧君）が中国の東北師範大学に留学することとなった。

また、9月9日に、東北師範大学において、「道徳公民教育に関する全国ポストドクターフォーラム—中国の特徴と国際比較—」が開催され、吉田武男教授、井田仁康教授、唐木清志教授の3名がシンポジストとして招聘された。今回の渡航も、昨年度と同様に、ハプニングに見舞われることになった。

具体的に言うと、航空会社の都合でその3名の搭乗するはずの機体が前日の8日夕方に用意されず、翌日の9日の9時10分に飛行機が出発することになった。しかし、フォーラムは9日の9時から開催されるために、間に合わないことが確実となった。しかも10時から吉田教授が挨拶する役割を担っていたために、困った事態が発生してしまった。東北師範大学からは、挨拶だけでも録画してインターネットで送ってほしいという依頼があり、井田教授と唐木教授がディレクターとカメラマンの役割を協力して演じ、吉田教授の挨拶をパソコンで録画・送信した。

その録画は予定の時間にフォーラム会場で映されたようである。

3名は、翌日に6時間遅れで会場の壇上に到着することになったが、フォーラムに参加していたシンポジストや聴衆者は3名をスタンディングオベーションで暖かく迎えてくれた。後日談で聞いたことであるが、フォーラムの参加者と関係者は、飛行機のトラブルがあったにもかかわらず、参加をキャンセルすることなく、挨拶の録画を送信し、外国から会場に何としても駆け付けた3人に感激したそうである。

また、今回の行事で外国から招聘されていたカリフォルニア大学バークレー校の教授、モスクワ大学の教授、ヘブライ大学の教授らとも交流できたことは、思わぬ収穫であった。なお、その会場には、ダブルディグリープログラムで留学していた宮本君も駆け付けてくれた。

まさに、今年度の交流は「雨降って地固まる」という国際交流であった。

（文責：吉田武男）

国際シンポジウムの様子（動画）は、以下のURLからご覧いただけます。

URL：<http://www.human.tsukuba.ac.jp/education/2018/02/2265/>



国際シンポジウムの様子

韓国での活動報告

1. 教育学類生のソウルでの巡検

本年度は、9月19日～21日に韓国ソウルで教育学類の授業である「アジア教育史演習」の巡検を実施した。初日は移動日であったため、午後は宿泊所である南山 YH から南大門市場に通じる道を皆で散策した。この道の間には中国大使館周辺にあるチャイナタウン、朴大統領糾弾時にロウソクデモが行われた光復門前ロータリー道路、旧朝鮮銀行や旧三越百貨店の跡地、崇礼門(旧南大門)など、近世から現代にかけての遺構が多い。2日目は、成均館大学附属博物館周辺の韓国儒教関係の明倫堂などの建築物を回り、昼からは筑波大学の協定校である梨花女子大学の梨花資料館を見学した。梨花女子大学は、メソジスト派宣教師が女子教育のために建てた塾から始まった。ここで近代以降の韓国教育史や女子教育の歴史を辿った。午後は歴史教育の場として西大門刑務所歴史館を見学した。最終日は、北朝鮮のミサイル問題など時事的な内容と関連付ける意味で、戦争記念館を見学地を選んだ。記念館はソウル駅近くの米軍基地に隣接する龍山にある。戦争の歴史を古代から朝鮮戦争、ベトナム戦争まで学ぶことができる。記念館には兵器や爆撃機なども展示されており、韓国での戦争史および平和教育を考える機会となった。



梨花女子大学の梨花資料館で話を聞く様子

2. 教育研究科大学院生の釜山での巡検

大学院教育研究科社会科コースの「歴史教育学特講」の授業により、2017年9月5日～7日の日程で韓国釜山での歴史を中心とした巡検を行った。飛行機の関係上、初日は午後に釜山に到着したため宿舎近くで夕食を取り、地下鉄1号線の南浦洞駅から国際市場に至る道を散策した。このルートは、戦前に釜山にいた日本人居住地であり、1945年以後は朝鮮戦争により生じた避難民より市場が開かれた。2日目はバスをチャーターし、釜山より1時間ほどにある巨済島の歴史を巡検した。まず、秀吉の朝鮮侵略に対して、李舜臣將軍率いる水軍が亀甲船で最初に勝利した玉浦を見学した。ここは現在、玉浦大捷記念公園となっており、記念碑や資料館を見学した。次に行ったのは巨済島捕虜収容所遺跡公園である。ここは、朝鮮戦争時に北朝鮮や中国の捕虜を収容したところであり、模型や映像などで当時の激しい南北対立の状況を垣間見ることができた。最後は金泳三記念館である。巨済島は、金泳三元大統領と文在寅現大統領という戦後の大統領を2名輩出している。金泳三記念館では生家を見学し、彼の行なった民主化運動などについての見識を深めた。最終日は地下鉄で移動し、UN(国連軍)記念墓地を回り、朝鮮戦争が南北の内戦であるとともに国際戦であったことを学んだ。

(文責：國分麻里)



金泳三記念館の大統領職務室模型での記念撮影

ロシア・モスクワ市立教育大学との国際交流

人間学群国際化プロジェクトの一環として、教員3名、学生11名で2017年9月23日から10月1日にかけてロシア・モスクワ市立教育大学(MCU)等と国際交流を行いました。教育学類からは、2年生の中井澤卓哉さんと鈴木葵さんが参加しました。

(1) モスクワ市立教育大学との交流

研修が本格的に始まった3日目の午前中は、MCUと筑波大学がそれぞれ学校紹介を行いました。中井澤さんと鈴木さんは、学生の進路や取得しようとしている教員免許など学生の実態と合わせて、教育学類を紹介してくれました。その後、筑波大生は、MCUの学生に折り紙を体験してもらう出し物と、浴衣を着てドラえもん盆踊りを行いました。盆踊りでは、MCUの学生もステージに上がって一緒に踊ってくれて盛り上がりました。先方もカチューシャ、パラパラなど様々な出し物を披露してくれました。午後からは、MCUの学生が私たちが歓迎するパーティーを開いてくれました。ピロシキ、ボルシチなど手作りのロシア料理を頂くことができました。

研修4日目の午前中は、心理、教育、障害科学それぞれに分かれて研究発表を行いました。教育の分科会では、MCUの学生がロシアの教育制度、外国語教育の現状等について発表し、こちらは日本の大学入試制度改革について発表しました。その後、日ロの教育の共通点と相違点について活発に意見交換が行われました。「とくに目的もないまま大学にいく人が多い」という点で両大学の学生が深くうなずき合っていました…

(2) 現地の学校見学

研修4日目の午後は、補充教育の施設である子どもの創造センターを訪問しました。ピアノの部屋、ロボットの部屋、バレエの部屋、チェスと将棋の部屋など様々な部屋がありました。ロシアでは、4歳から18歳までの子どもがこれ

ら無数の選択肢の中から自分のやりたいことを選び、専門の先生について学ぶことができるそうです。日本の部活動と異なり専門的な先生から学べる点、習い事とは異なり無料ないしは少額で学べる点など、優れた教育制度だと感銘を受けました。

研修5日目は、高等経済大学附属高校を訪問しました。こちらの学生が日本語の授業に参加し、同じ趣味の人を探すというゲームをしました(図1)。その後、日本語を勉強する高校生とこちらの学生とでディスカッションを行いました。「なぜ日本語を学んでいるの?」、「ロシア人の印象は?」など、とても盛り上がりしていました。

研修7日目は、インクルーシブ教育を行っている518番学校を訪問しました。6グループに分かれて、小学校から高等学校まで様々な教室を参観させて頂きました。私が参観した9年生(日本の中学3年生に相当)の英語の授業は、生徒12名中2名が特別な支援を必要とする生徒でした。障害が重い生徒にはアシスタントの先生がついていました。授業は教育実習生が行っていましたが、車椅子に乗った正規の先生が後ろから授業をみて、時おり生徒に声をかけていました。

今回の研修に当たり、フェジャーニナ先生、藤井先生、クアニシ先生、グリゴリー先生をはじめ、多くの方々からご協力・ご支援をいただきました。心よりお礼を申し上げます。

(文責：勝田光)



図1. 高等経済大学附属高で生徒と交流

中国の北京師範大学・華東師範大学との研究交流活動

大学院人間総合科学研究科の人間系専攻（教育学，心理学，障害科学の3学域に関係する専攻）では，毎年10月末～11月はじめの時期に，中国の北京師範大学と華東師範大学において大学院進学説明会を開催している。2017年度は，浜田博文教授（教育学専攻長・教育基礎学専攻長），片平克弘教授（学校教育学専攻長），上田孝典准教授の3名が，10月29日～11月3日の日程で両大学を訪問して3つの会場で説明会を開催し（各会場の参加者は20～30名），上海市内の公立学校2校を視察した。具体的な日程は下記の通りであった。

- 10月29日 北京到着。姜英敏教授と懇談。
- 10月30日 北京師範大学で説明会。
- 10月31日 上海到着。華東師範大学教育学部にて説明会。
- 11月1日 周彬・教師教育学院院長等と懇談。日本語学院にて説明会。
- 11月2日 上海市長寧区天山第一小学，上海市中遠実験学校を視察。張珏・上海市教育科学研究院副院長等と懇談。
- 11月3日 帰国。

今回の訪中に際して，華東師範大学教育学部の教師教育学院から，是非とも懇談の時間をもちたいとの依頼があり，周院長ほか数名の教員と面会した。その席で，教育学域の教員及び大学院生と継続的な研究交流を進めたいという強い意向をうかがった。教育学部の教員・院生との間での研究交流はこれまでも行っており，前年度には教師教育学院の教員を本学に招聘していたので，そのような要望はたいへん喜ばしいことだと受けとめて，さっそく2018年3月に院生と教員が華東師範大学を訪問して研究交流会を開催することにした。

また，上海市教育科学研究院の張副院長の取

り計らいにより，11月2日には上海市内の2つの公立学校を視察し，校長・教員との懇談会をもつこともできた。同研究院も本学との継続的な研究交流を強く望んでおり，華東師範大学とあわせて，今後も継続的に研究交流を続けていくことが望まれる。

（文責：浜田博文）



北京師範大学での専攻説明会



華東師範大学教師教育学院の先生方と



上海市中遠実験学校及び上海市教育科学研究院の先生方と